

千尋の浜草

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記⑧ 5月23日 吉彦、サウナに行く



1



2



3

①久志本神社の境内。車の奥に見える建物は集会場。先祖が居た場所に立っていることに感動した。
②世義寺の全景。鳥居が鎮座する。
③世義寺護摩堂。現在は境内に「石風呂」は見られない。寺がこのような施設を運営することができたということは、注目に値する。
(写真は加藤さん撮影。)

夕べから雨風が騒がしく、5月20日は濡れながら宿鈴鹿峠を越えて伊勢の国に入った一行の足取りは、軽快なものだったにちがいない。翌21日は朝早くから快晴です。5月8日に宇出津を出発して、この日ようやく目的の地に到達しました。宣長の住んでいる「小幡」の場所が特定できないので、聞きたいと思いきや茶屋に入りますが、つきききそびれてしまいます。もしかして「小俣」なのかも考えます。この日は以前から親しい関係であった、久志本神社の山口元右衛門久貞の家を訪ねて、「久志本の館」に泊まることにします。現在、久志本には地区の集会所が建っています。先祖・吉彦のいう「久志本の館」は確定できませんが、215年前(注・加藤さんは平成24年に訪ねた)の5月21日、吉彦はここに立っていました。先祖と同じ土を、自分が踏みしめていることに感動します。5月23日、能登へ手紙を出そうと紙を求めているうちに、久貞が正木正光を連れてやってきました。正光は能登に来たことがあるので大変親しい間柄です。「三人でこうしている、能登にいますよ」と笑いあいました。故郷への手紙を久貞にあずけて、しばらく話をしているうちに、「今日はジメジメしてうっとうしいから、世義寺へいかないか」と誘われました。世義寺は現在の伊勢市岡本にある真言宗のお寺です。ここに「石風呂」というものがあり、久貞に勧められ入ります。吉彦は「石風呂」について、「湯気に蒸さるるもよひなりと覚えて、ここよし。しばらく出ても又余程入り」と書いていて、その様子はまさに現在のサウナと同じです。



寛政の旅人：加藤吉彦（かとう・えひこ）。寛政9（1797）年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社 12代宮司。
平成の旅人：加藤三千雄（かとう・みちお=写真）。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」8月号の印刷費は一部当たり 30円です。



広報のと 第114号

平成26年8月1日発行

発行・能登町 編集・広報情報推進課
〒927-0049 石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎：0768-62-10000
URL：http://www.town.noto.lg.jp
Eメール：info@town.noto.lg.jp

「行政」「地域の魅力・価値」を「プラス」でつなぐ情報誌
Noto PLUS

広報のとNo. 114
2014.8.1

8

